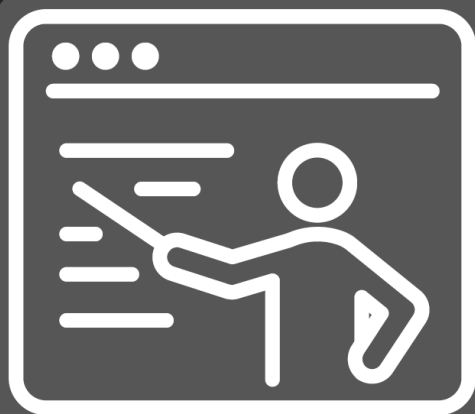


「大学のインスティテューショナル・ リサーチに関する調査研究」の第一次報告

2022年5月29日（日） Ⅲ-1部会（12：30～14：30）

○山田礼子（同志社大学）、○浅野茂（山形大学）、小湊卓夫（九州大学）、
塚完（大分大学）、村澤昌崇（広島大学）、○劉文君（東洋大学）

アウトライン



1. 本研究の問題意識と経過
2. 調査の概要とIR組織の構成
3. IR組織の有無・大学設置別から見られた差異
4. 速報値から見えてくる課題



1. 本研究の問題意識と経過

会長プロジェクトとして発足したIRプロジェクトの背景と問題意識

- ・学修成果や内部質保証、教学マネジメント体制の整備が求められる状況において、高等教育系の新しい専門領域としてのIR部門が各高等教育機関において定着
- ・高等教育学会にはIR部門の職に就いている会員も多い。
- ・会員所属の大学院で学びIR職に従事する比率も高い。



何が直面している問題なのか、課題を明らかにして、IRの定着・発展に
高等教育学会は何ができるかを問題意識に会長プロジェクトとして発足

IRプロジェクトの説明1

プロジェクトメンバー：多くは現在IRに従事しているか、IRに研究や業務としてかかわってきたメンバー、設置形態も国立・私立という異なる機関でのIRの経験

山田礼子（同志社大学）、浅野茂（山形大学）、小湊卓夫（九州大学）、堺完（大分大学）、村澤昌崇（広島大学）、劉文君（東洋大学）

第1ステップ：問題・課題の抽出

- ・ IRを巡る問題（課題）は何か、そして高等教育学会がその問題（課題）の解決、改善に向けて何ができるかをこれまでの2014年東大調査、2017年私立大学連盟調査、その他の先行調査から把握
- ・ IRプロジェクトメンバーの経験値をベースにした問題を抽出し、データから見えてくる課題とフィールドから見えてくる問題を検討し、具体的レベルでの問題を把握

IRプロジェクトの説明2

第2ステップ:

- ・ 全国の大学におけるIR活動の現状を把握することを目的にWebによる調査を実施
- ・ 2021年12月から2022年1月にWeb調査
- ・ 「大学のインスティテューショナル・リサーチ（IR）に関するアンケート」として山形大学のアンケート調査システムを利用して全国の大学のIR担当部門（担当者）に回答してもらうようにウェブでの調査のシステムを設計
- ・ 800の全国の大学にWebアンケートのURLを送付、1回のリマインドを行い、1月17日に調査を終了
- ・ 調査の回答数：285の完全回答と550超の未完了の回答
データのクリーニングを行い、282件の有効回答 [国立：43（15.2%）、公立：27（9.6%）、私立：212（75.2%）]
- ・ 今回の報告は速報として単純集計値を中心とした第一次報告を行う。その後、詳細なデータ分析をしつつ、IRの発展への提言へとつなげるような研究成果を企図



2. 調査の概要とIR組織の構成

2.1 調査の概要

～アンケートの構成と質問数～

区分	質問の概要	質問数
1 回答者属性	回答コード、回答者氏名	2
2 IR組織の設置状況	組織の有無、名称、構成、設置年度、組織の長等	6
3 IR組織の予算と役割	予算の額、予算の種別、組織の役割	3
4 IR組織の収集データ	収集データの種類、管理の方法	2
5 IR組織の活動	組織の位置付け、活動目的、実施している調査等	4
6 IR組織のデータアクセス	全学ローデータへのアクセス、リトリート等の状況	1
7 IR組織の採用・育成	担当者の採用、育成等	2
8 IR組織の課題	IR活動を推進する上での課題	1
9 自由記述	IRに関する意見、感想等	1

2.1 調査の概要 ～回答の内訳～

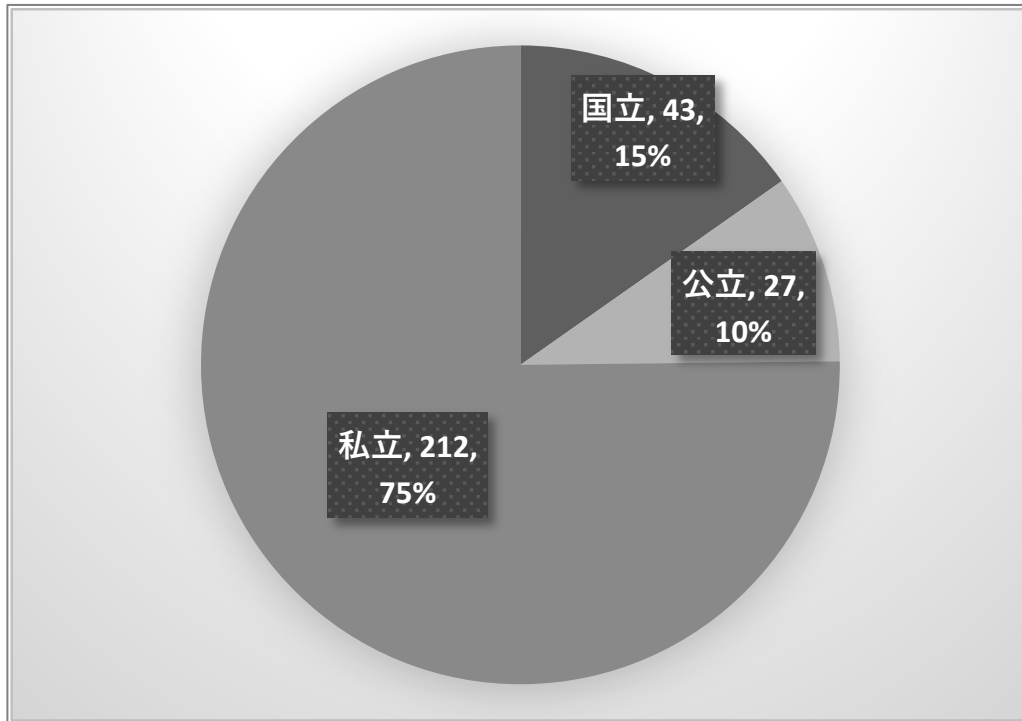


図1 有効回答数 (n=282)

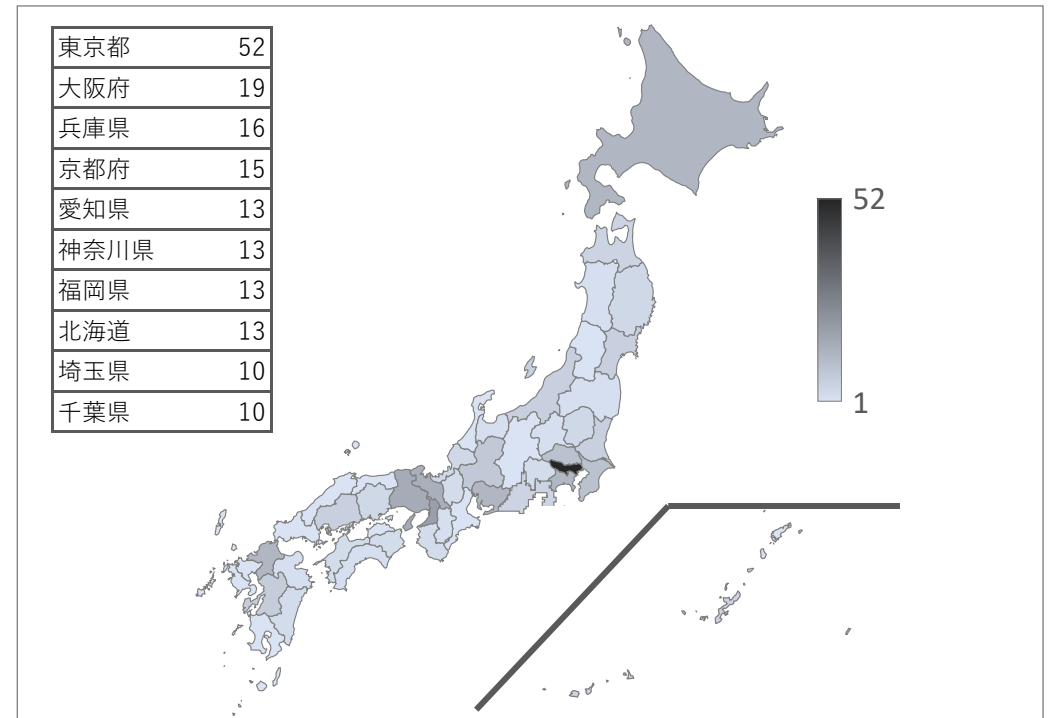
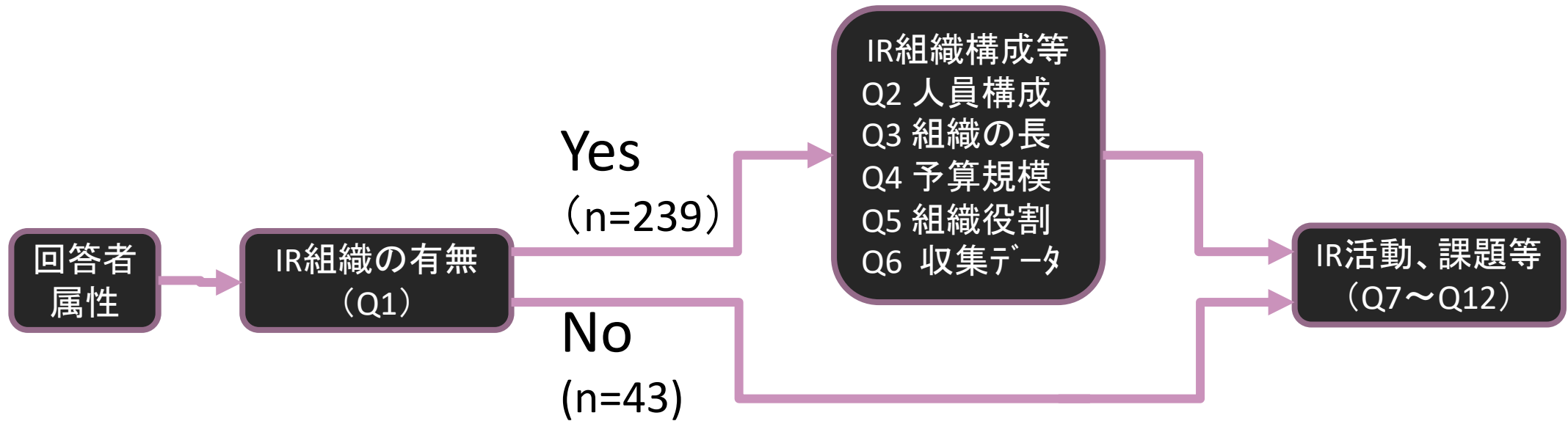


図2 回答大学の所在地

2.1 調査の概要

～アンケートの回答フロー～

IRとは「大学のミッションとその実現のための手段とりわけ情報収集と分析」
※平成24-25年度文部科学省大学改革推進委託事業「大学におけるIR(インスティテューショナル・リサーチ)の現状と在り方に関する調査研究」(2014年3月)に基づく。



2.2 IR組織の構成

～IR組織の設置状況(Q1)、名称(Q2)～

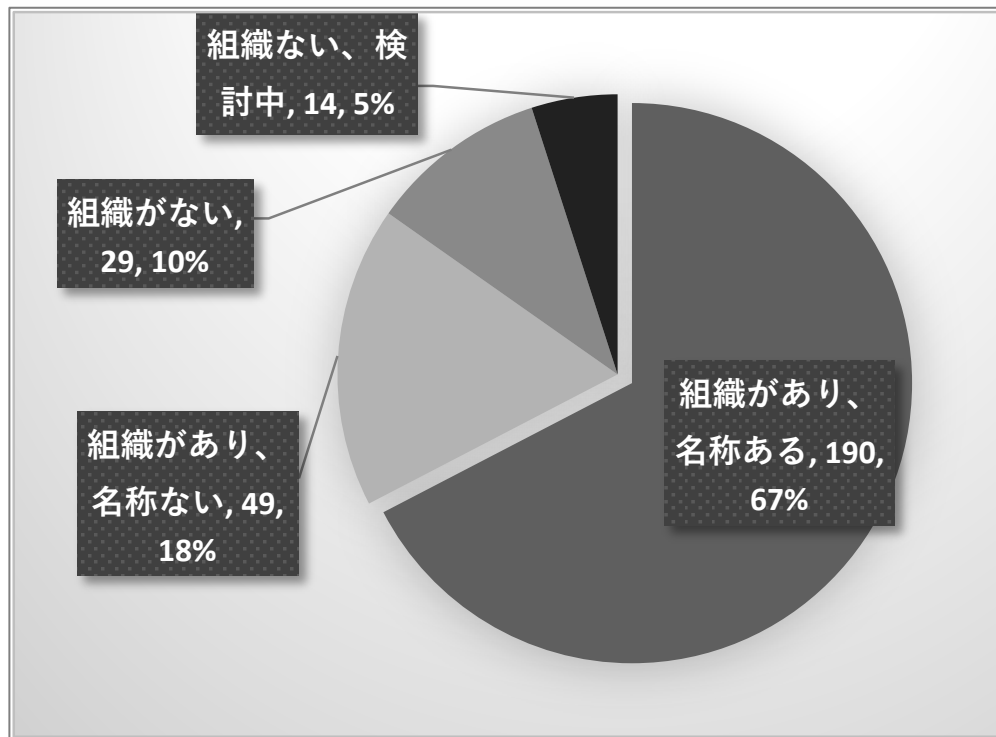


図3 組織の有無

表1 IR組織の名称

組織の名称	度数	%
IR室	41	13.8
IR推進室	22	7.8
IRセンター	12	4.2
IR推進委員会	7	2.5
IR推進センター	6	2.1
IR委員会	6	2.1
学長室	3	1.1
教学IRセンター	3	1.1
教学IR室	3	1.1

2.2 IR組織の構成

～IR組織の設置年度(Q2)、組織の役割(Q5)～

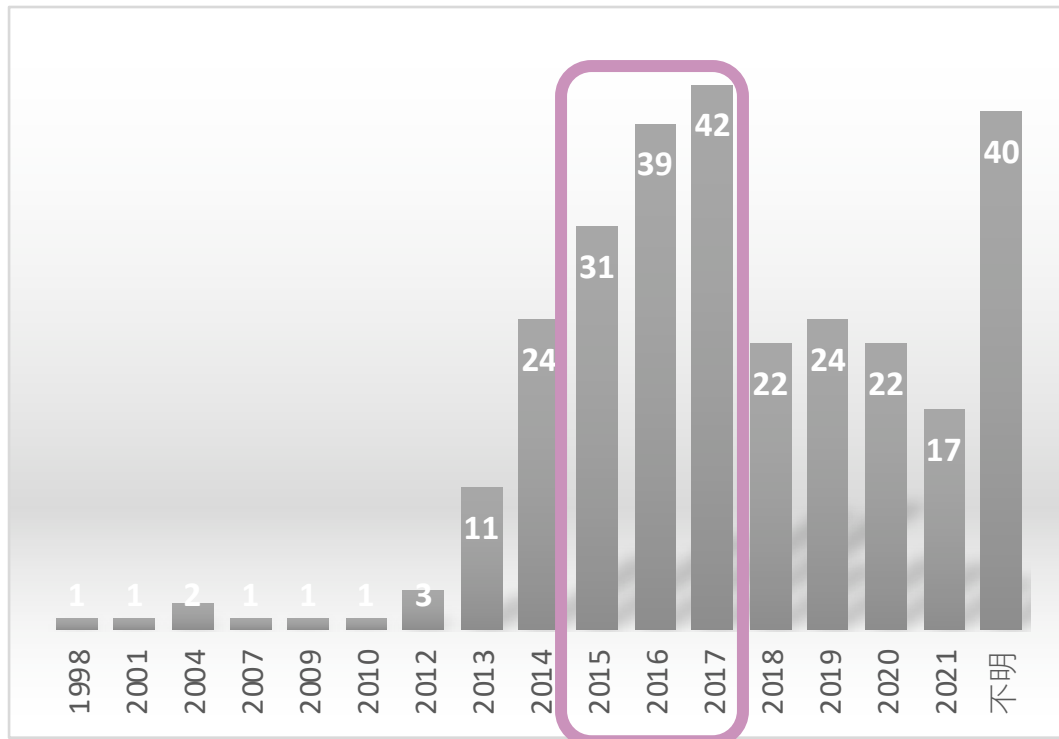


図4 IR組織の設置年度

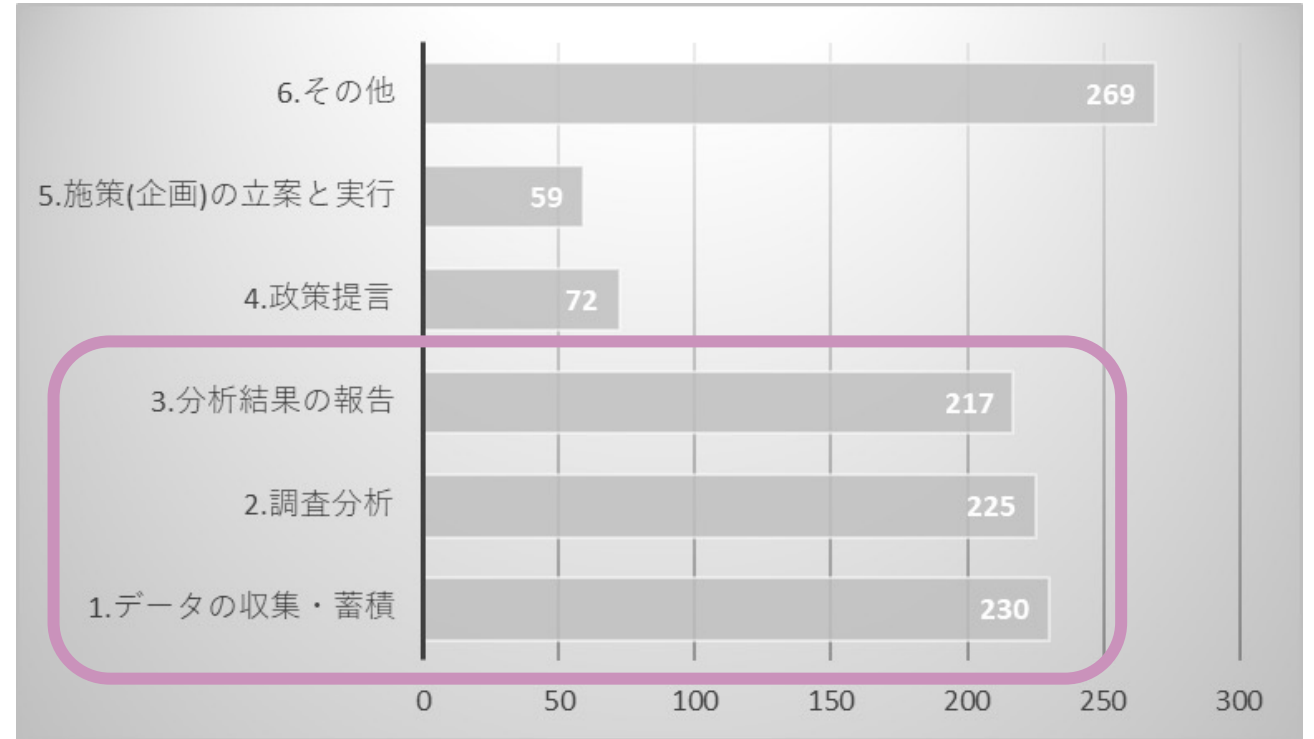


図5 IR組織の役割

2.2 IR組織の構成 ～IR組織の人員配置(Q2)～

表2 IR組織における教職員の配置状況

員数 (人)	教員						職員					
	専任		専任以外		専従者		専任		専任以外		専従者	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
0	132	46.8	155	55.0	216	76.6	62	22.0	123	43.6	165	58.5
1	41	14.5	19	6.7	23	8.2	54	19.1	49	17.4	52	18.4
2	21	7.4	19	6.7	2	0.7	51	18.1	18	6.4	17	6.0
3	14	5.0	14	5.0	0	0.0	27	9.6	12	4.3	6	2.1
4	12	4.3	9	3.2	0	0.0	17	6.0	12	4.3	2	0.7
5	7	2.5	6	2.1	1	0.4	12	4.3	5	1.8	1	0.4
6	3	1.1	5	1.8	1	0.4	10	3.5	7	2.5	0	0.0
6以上	14	3.9	17	7.0	1	0.4	11	5.0	18	6.4	1	0.0

2.2 IR組織の構成 ～IR組織の採用・育成(Q11)～

表3 IR組織における教職員の採用及び育成

項目	採用		育成	
	度数	%	度数	%
行なっている	40	14.2	75	26.6
行なっていないが検討している	32	11.3	54	19.1
行なっていない	149	52.8	112	39.7
行なっておらず検討もしていない	51	18.1	33	11.7
その他	10	3.5	8	2.8

2.3 その他回答結果 ～規程の整備状況(Q2)、組織の長(Q3)～

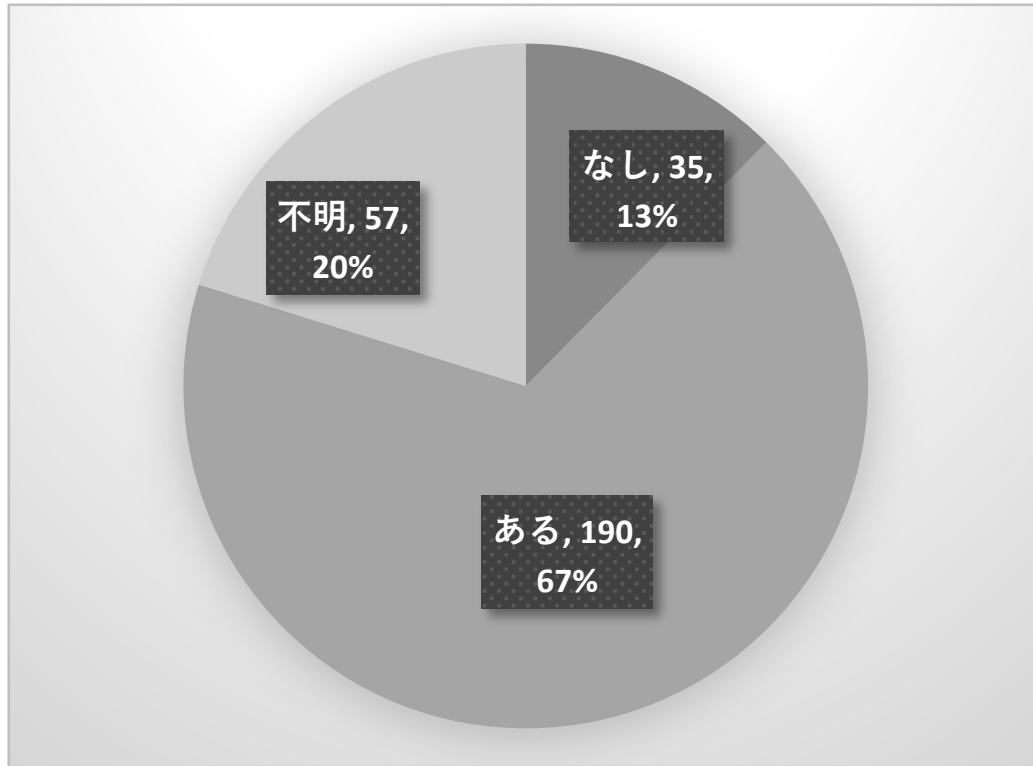


図6 規程の整備状況

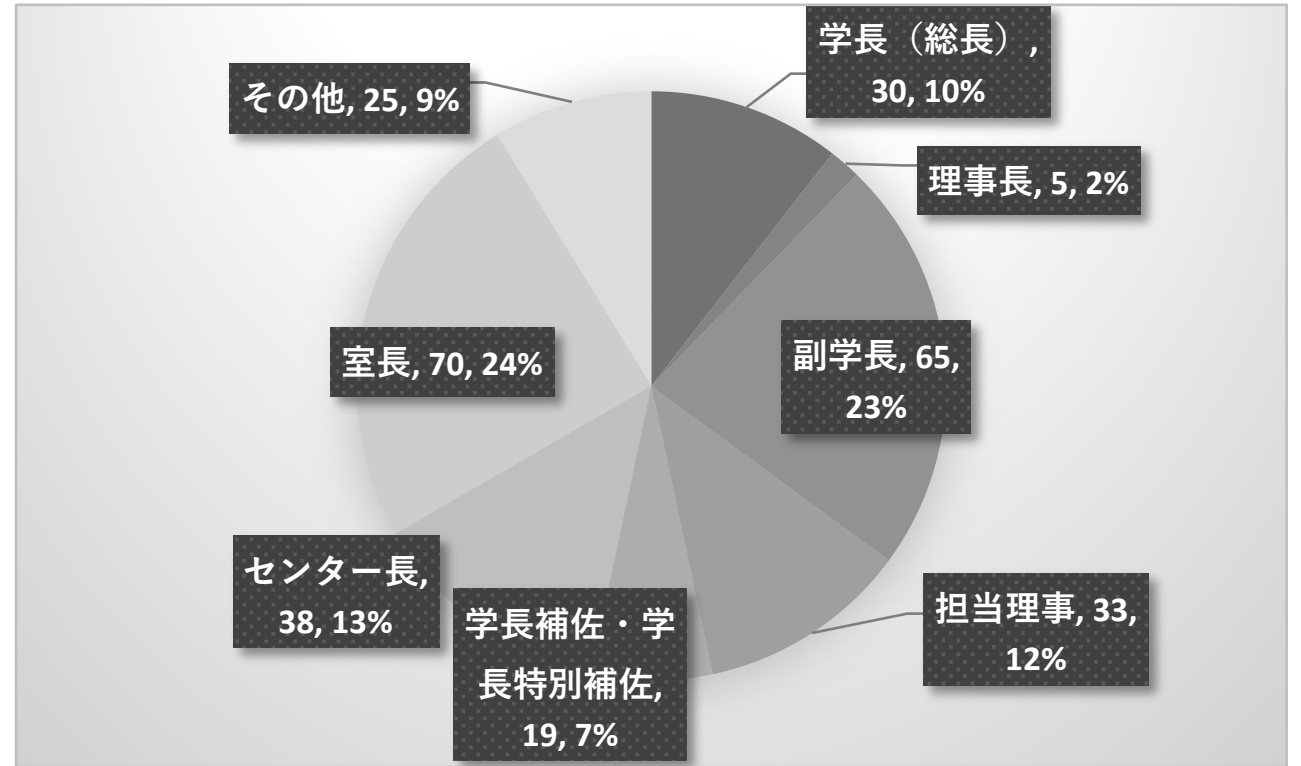


図7 IRの組織の長

2.3 その他回答結果 ～予算規模、種別(Q4)～

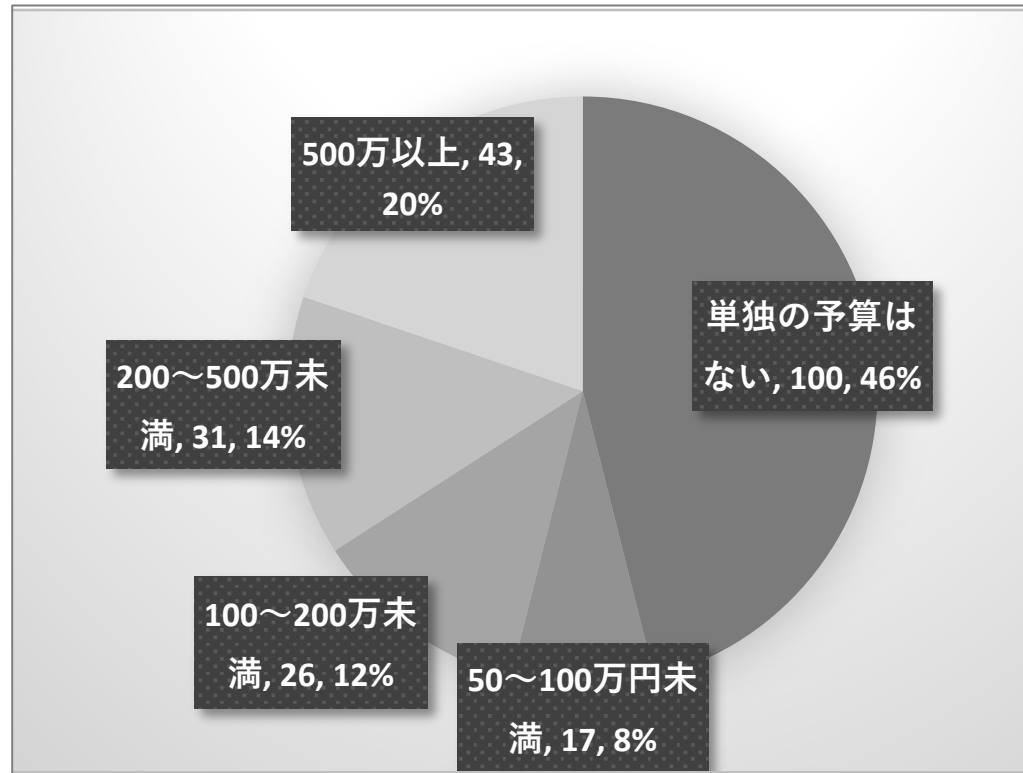


図8 予算規模

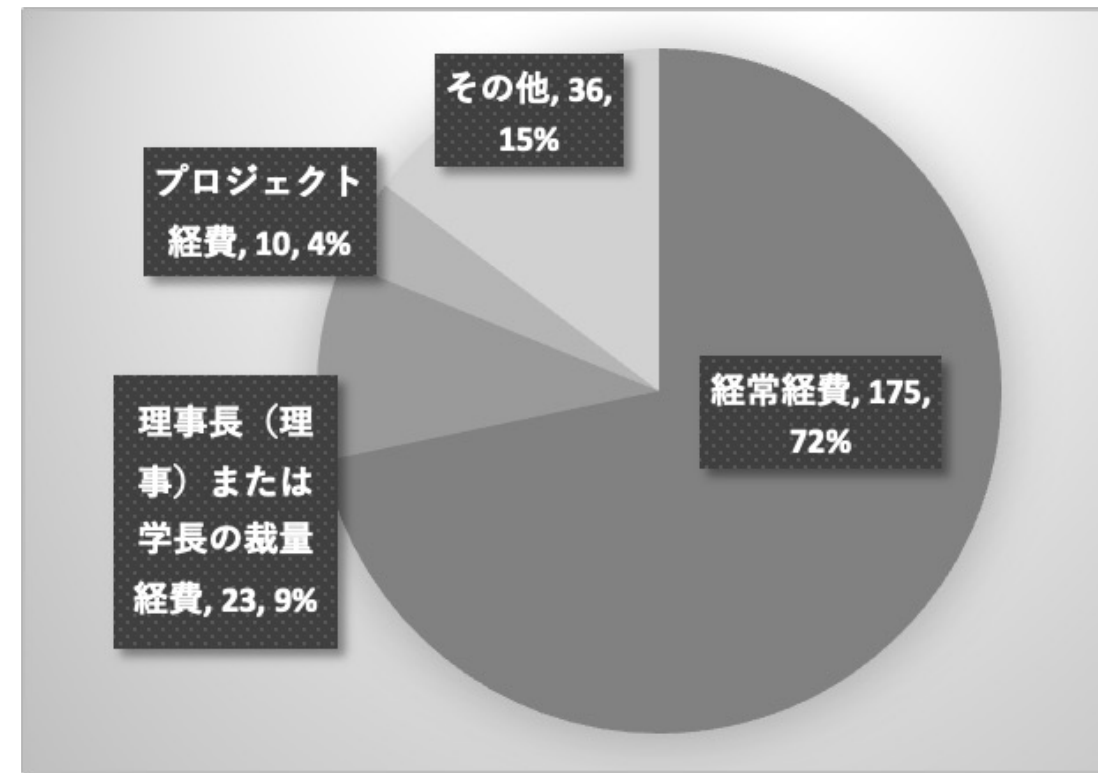


図9 予算種別

2.3 その他回答結果 ～収集データと管理(Q6)～

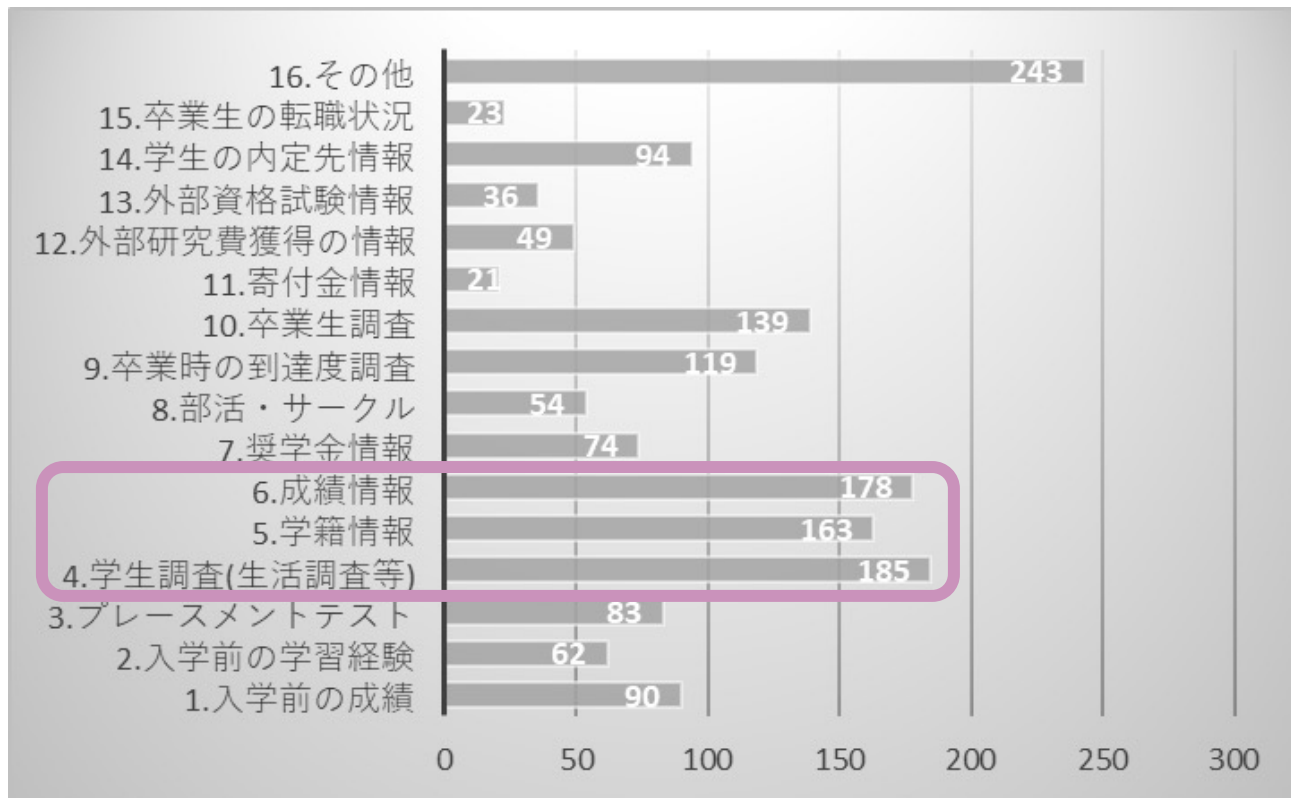


図10 IR組織で収集しているデータ

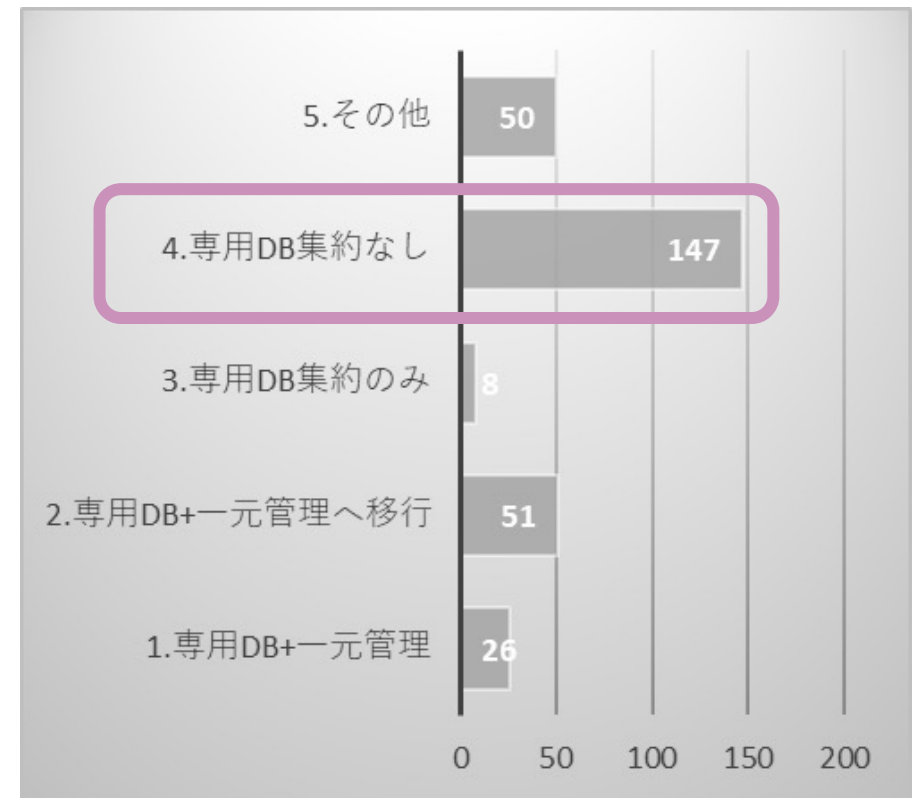


図11 収集データの管理

2.3 その他回答結果

～IR活動の実施状況及び実施体制 (Q7)～

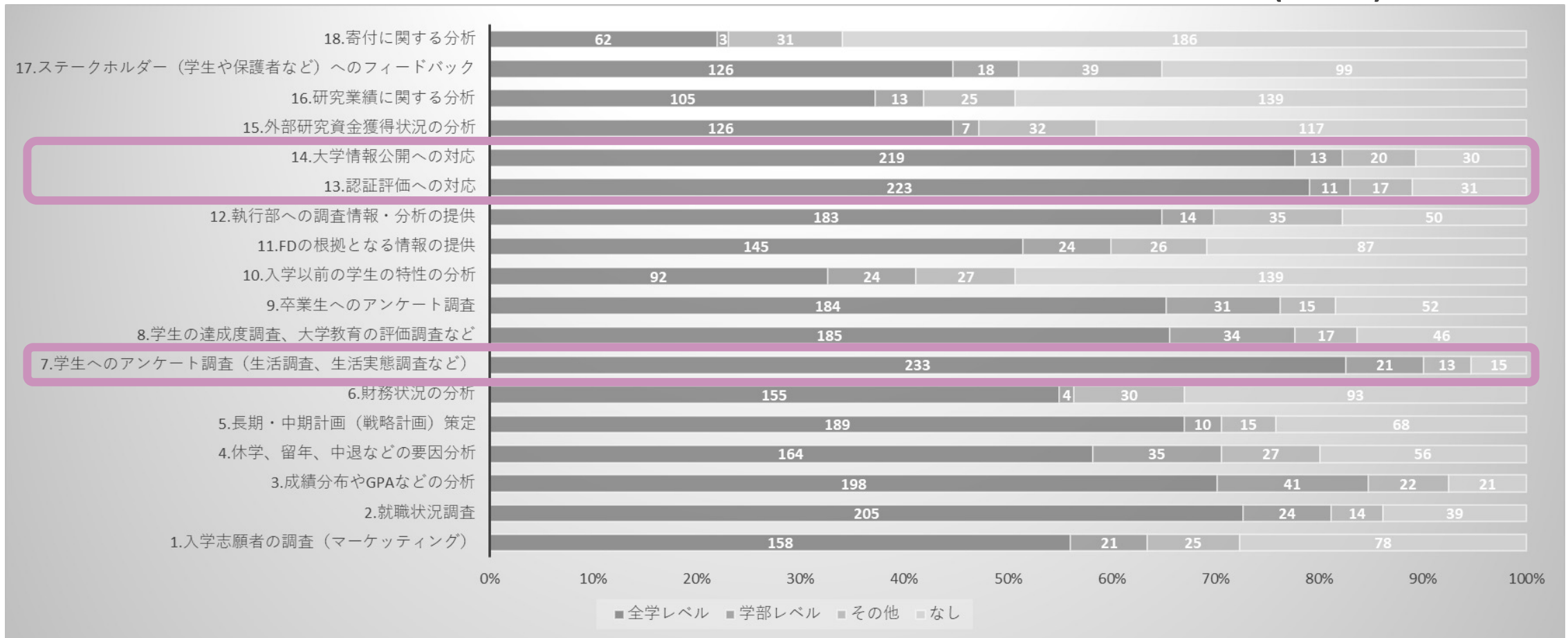


図12 IR活動の実施状況及び実施体制

2.3 その他回答結果 ～学生調査の実施状況、実施組織(Q9)～

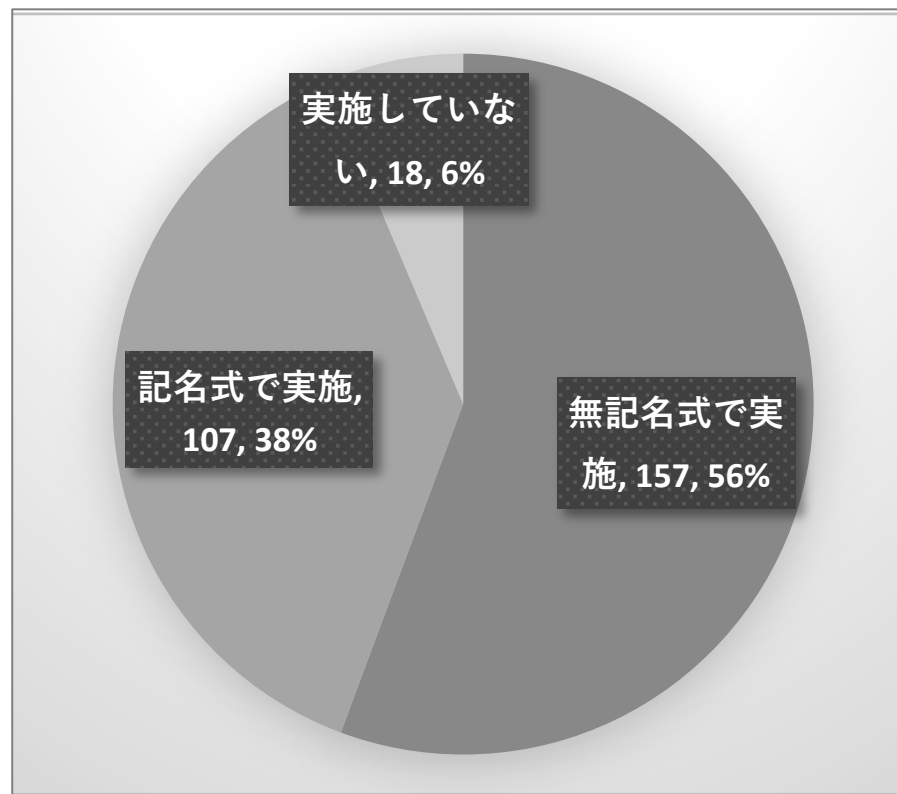


図13 学生調査の実施状況

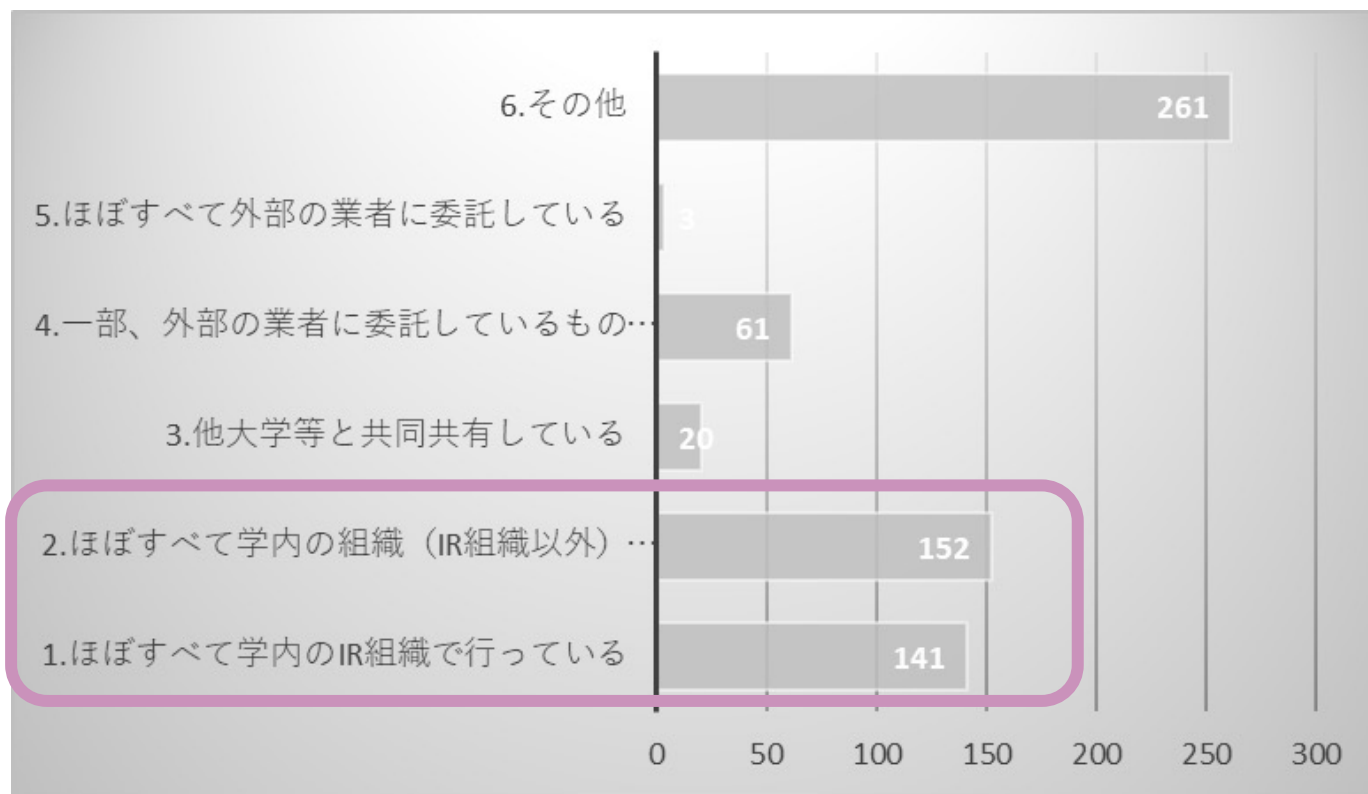


図14 学生調査の実施組織

2.3 その他回答結果

～IR活動の目的(Q8)、データアクセス(Q10)～

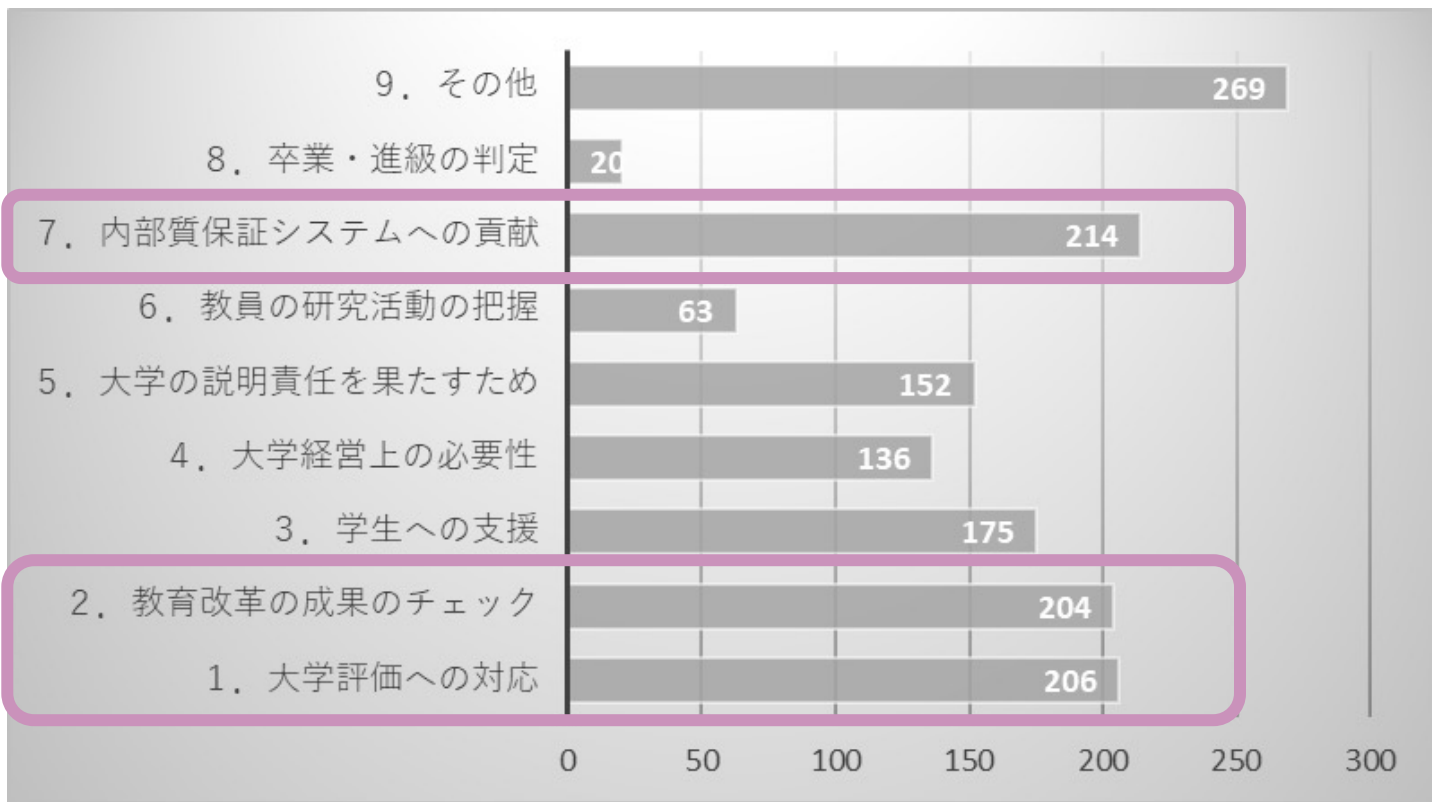


図15 IR活動の目的

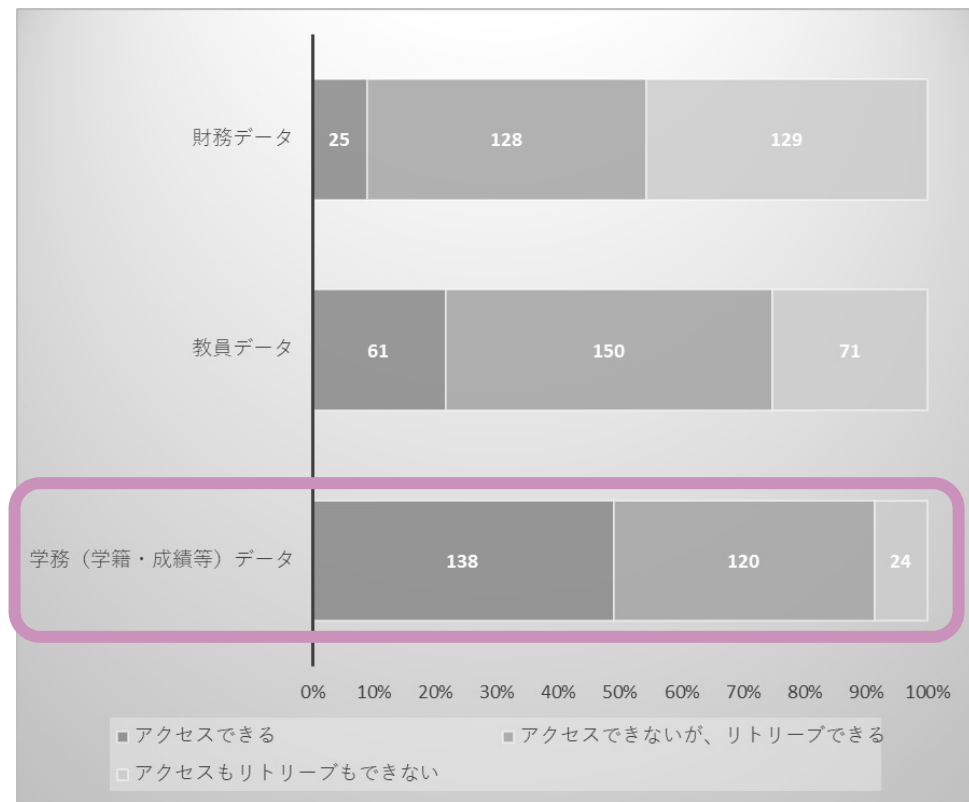


図16 データアクセス

2.3 その他回答結果 ～IR活動及びIR組織に関する課題(Q12)～

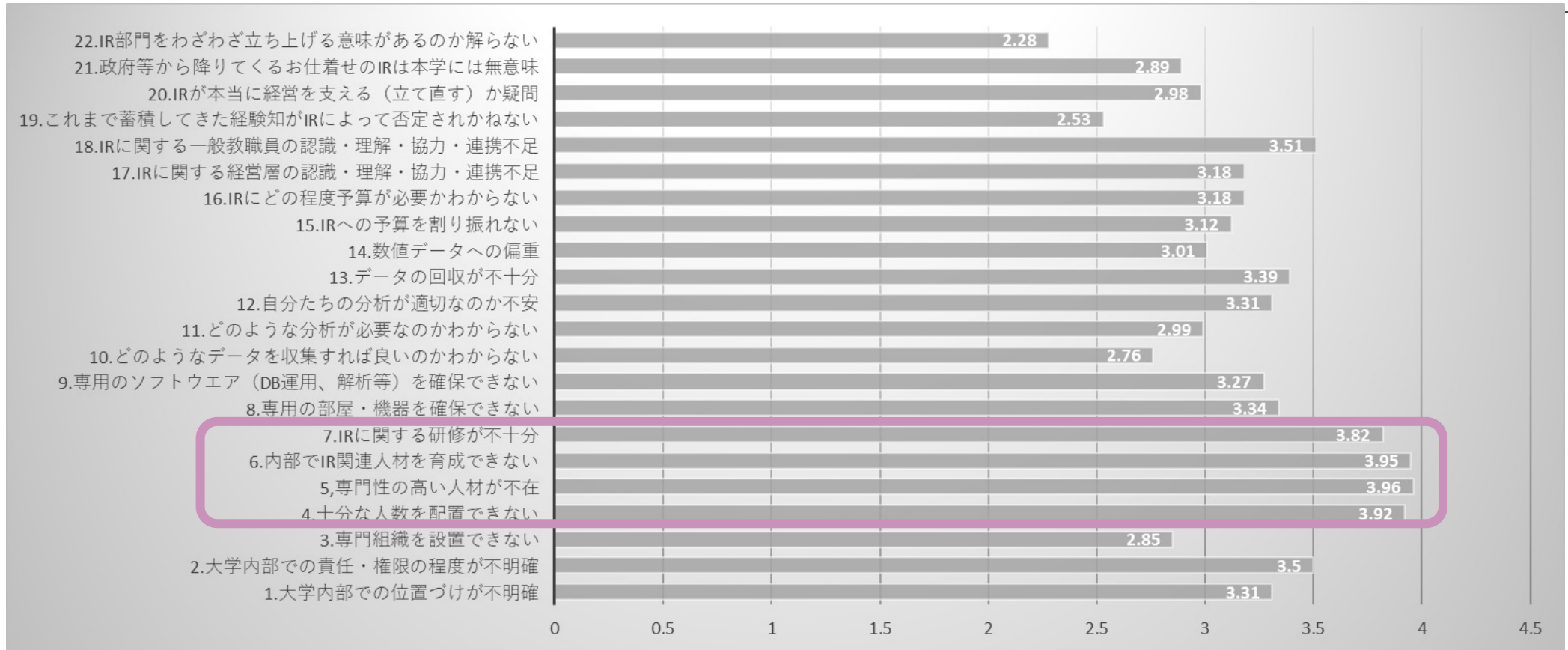


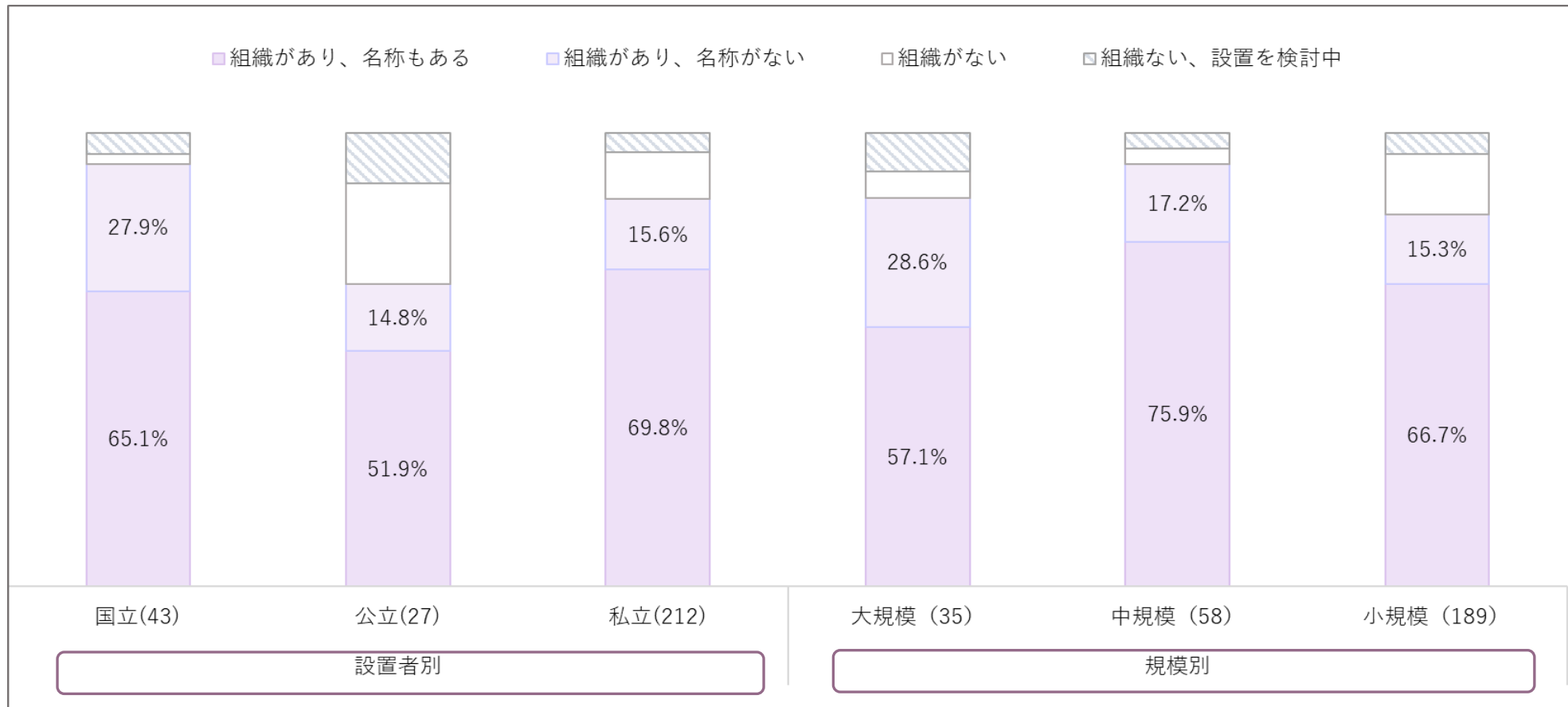
図17 IR活動及びIR組織に関する課題



3. IR組織の有無・大学設置別から見られた差異

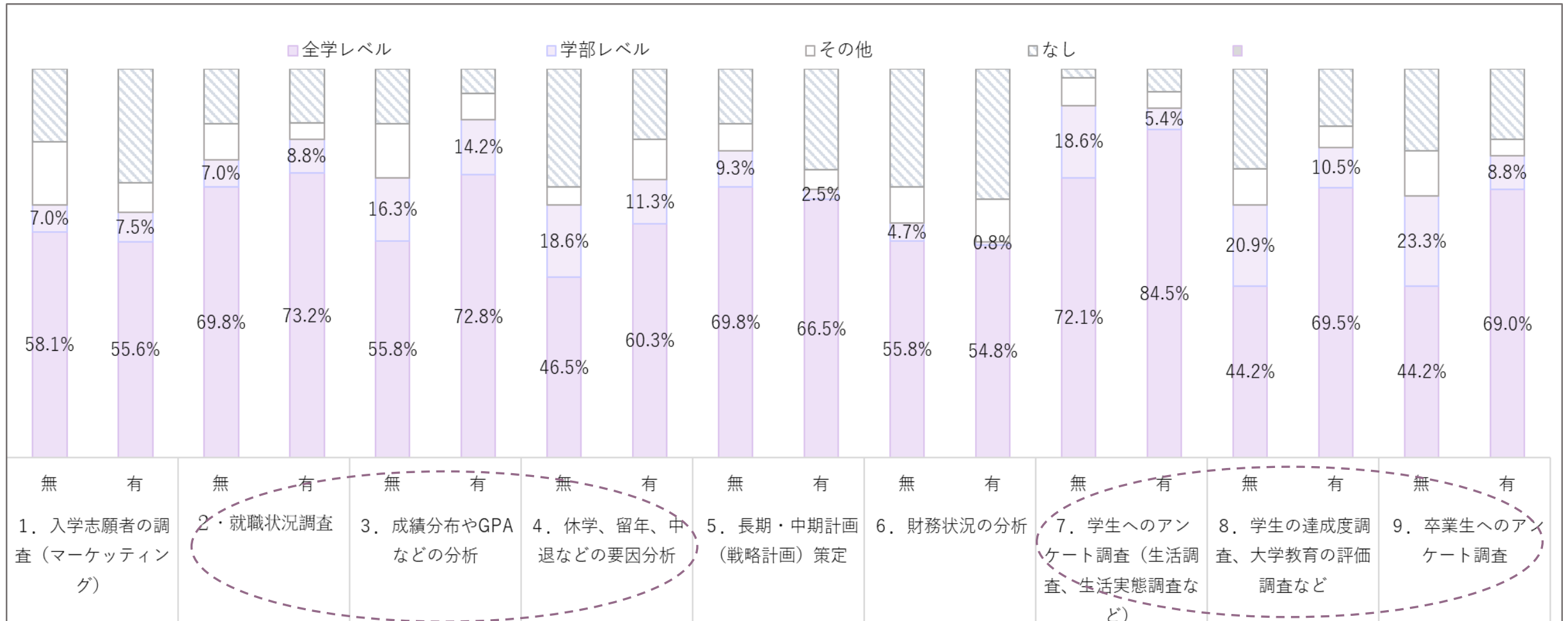
3.1 IR組織の設置状況(Q1×設置者別・規模別)

全学レベルのIR組織がある(「組織があり、名称もある」+「組織があり、名称がない」)の割合は国立大学が最も高く(93%)、私立大学(86%)、公立大学(67%)。中規模大学(在学者数4,000~8,000人)では9割で、小規模大学(在学者数4,000人未満)と大規模(在学者数8,000人以上)はそれぞれ8割。



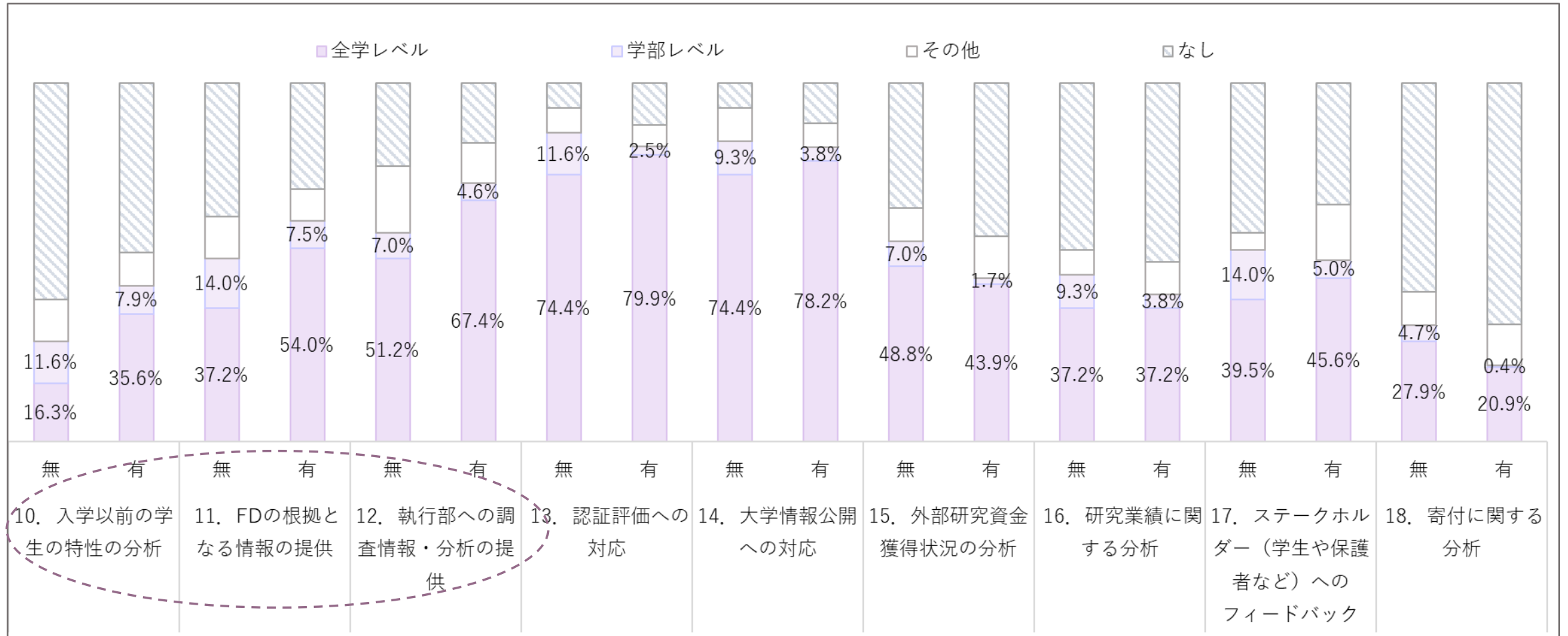
3.2 IR活動の実施(Q7×「IR組織の有無」)①

教学に関連する調査、分析、情報提供、の各項目では、「全学レベル」・「学部レベル」で実施していると回答する割合が、IR組織が「有」で高い。

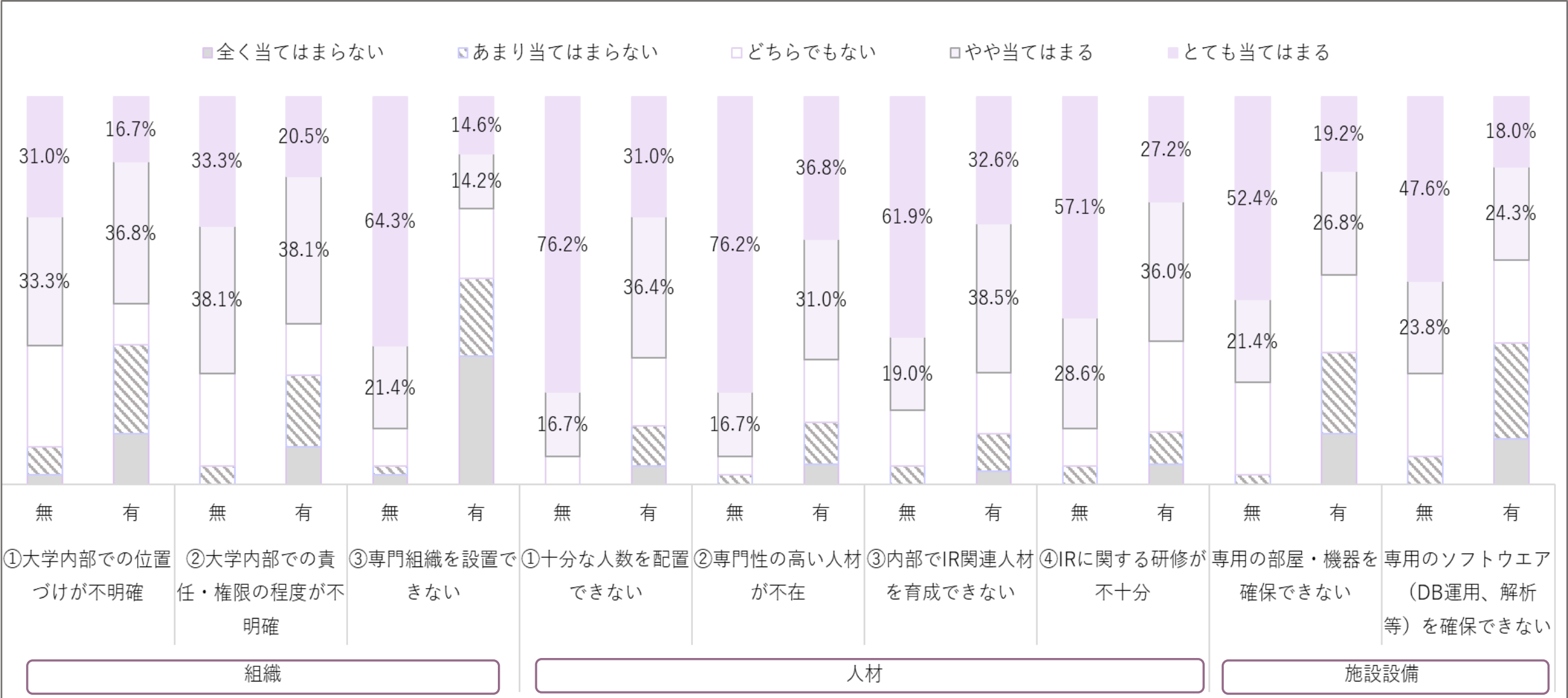


3.2 IR活動の実施Q7×「IR組織の有無」②

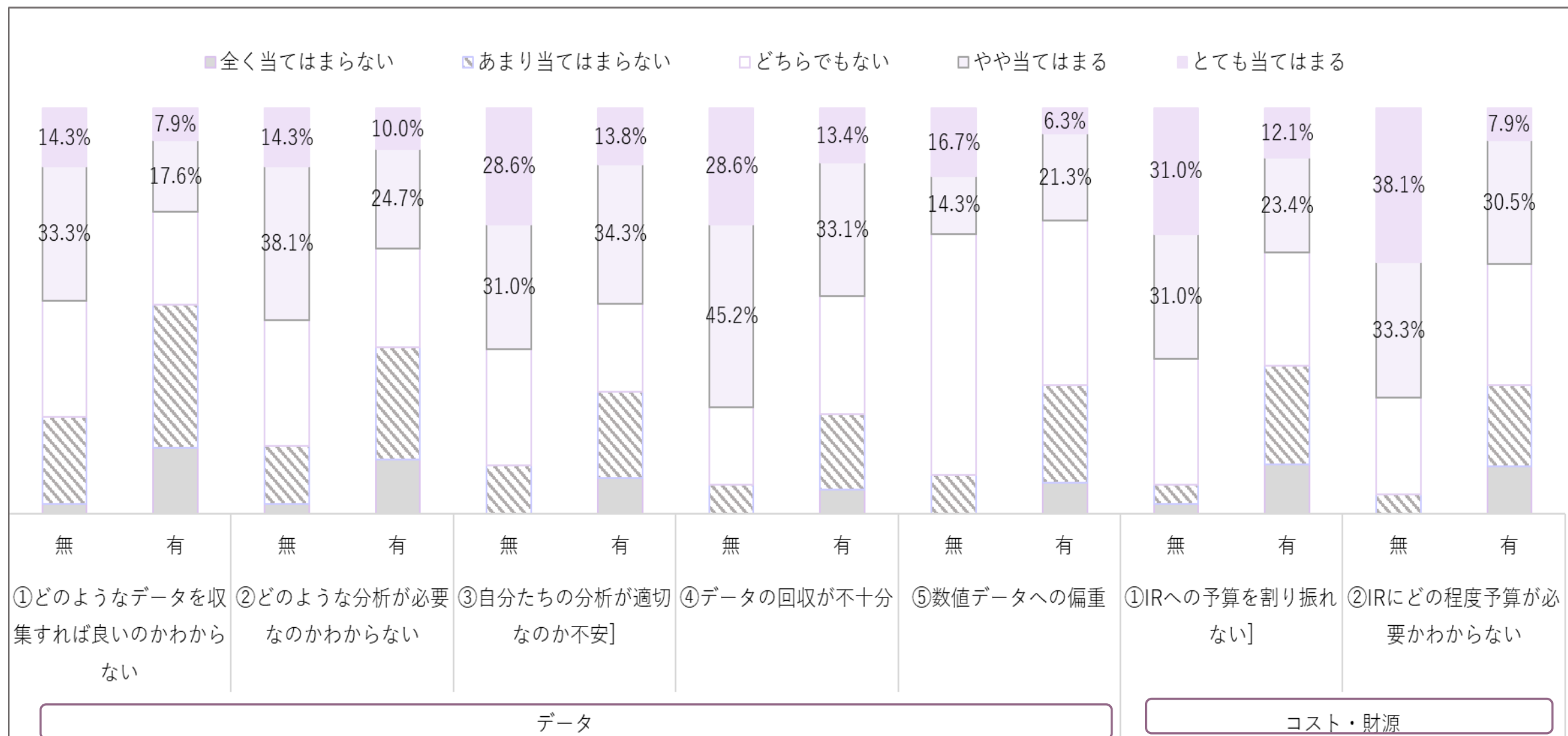
「1.入学志願者の調査」・「5.長期・中期計画(戦略計画)策定」・「6.財務状況の分析」・「13.認証評価への対応」・「14.大学情報公開への対応」・「15.外部研究資金獲得状況の分析」・「16.研究業績に関する分析」・「17.ステークホルダーへのフィードバック」・「18.寄付に関する分析」の各項目では上記の傾向が見られない。IR組織の活動はとくに「教学IR」に特化している。



3.3 IR活動およびIR組織の課題（Q12×「IR組織の有無」） ①「組織」、「人材」、「施設設備」



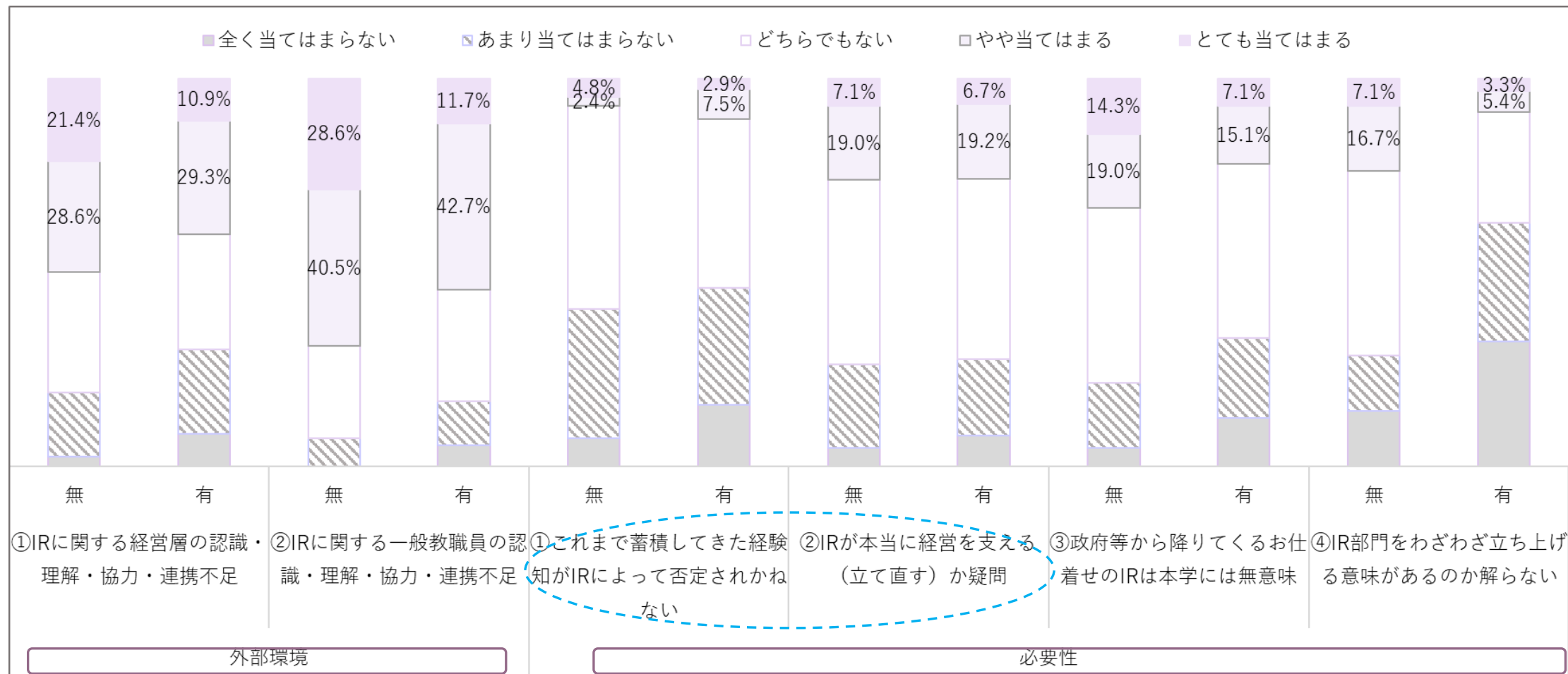
3.3 IR活動およびIR組織の課題(Q12×「IR組織の有無」) ②「データ」、「コスト・財源」



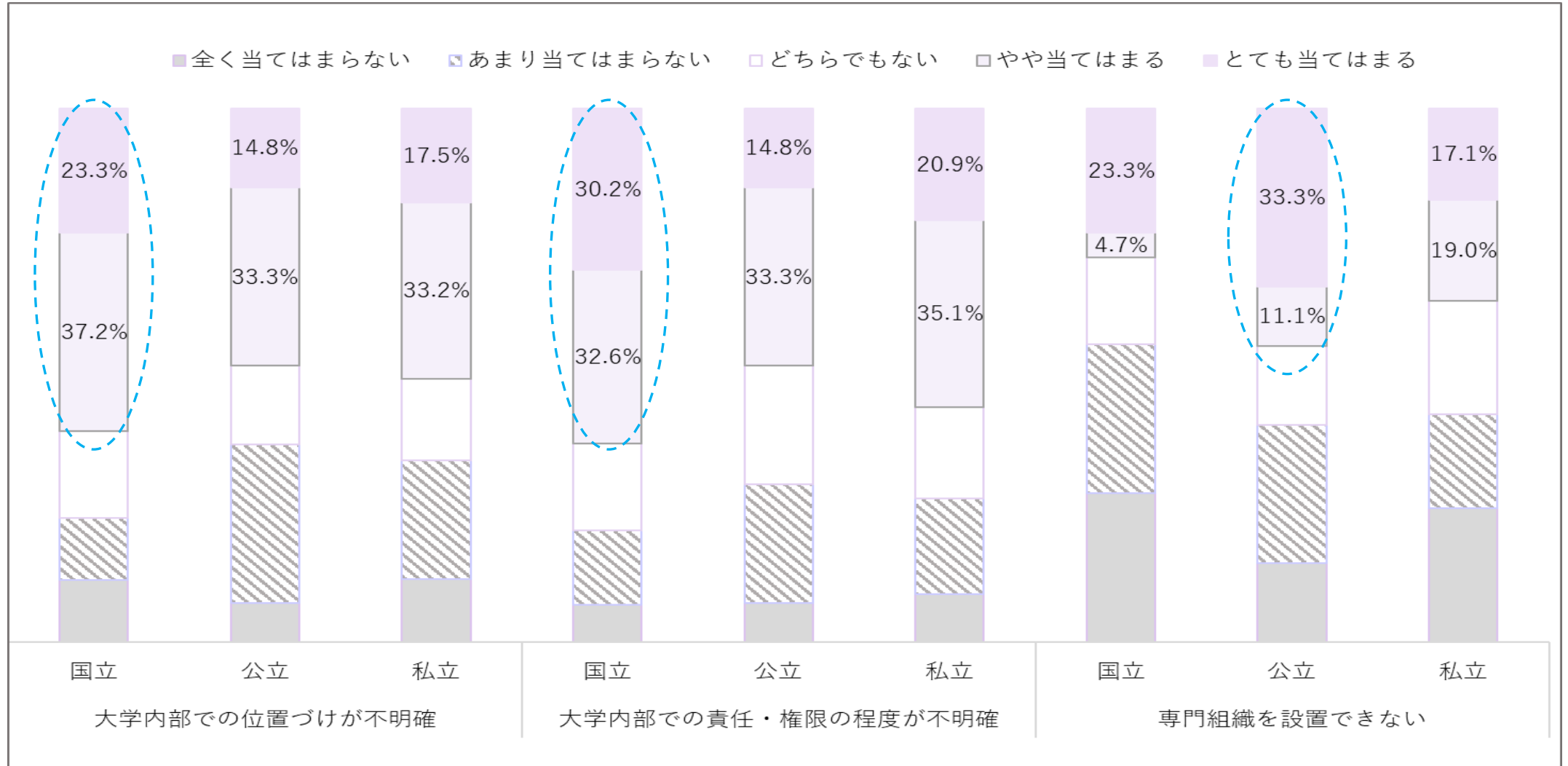
データ

コスト・財源

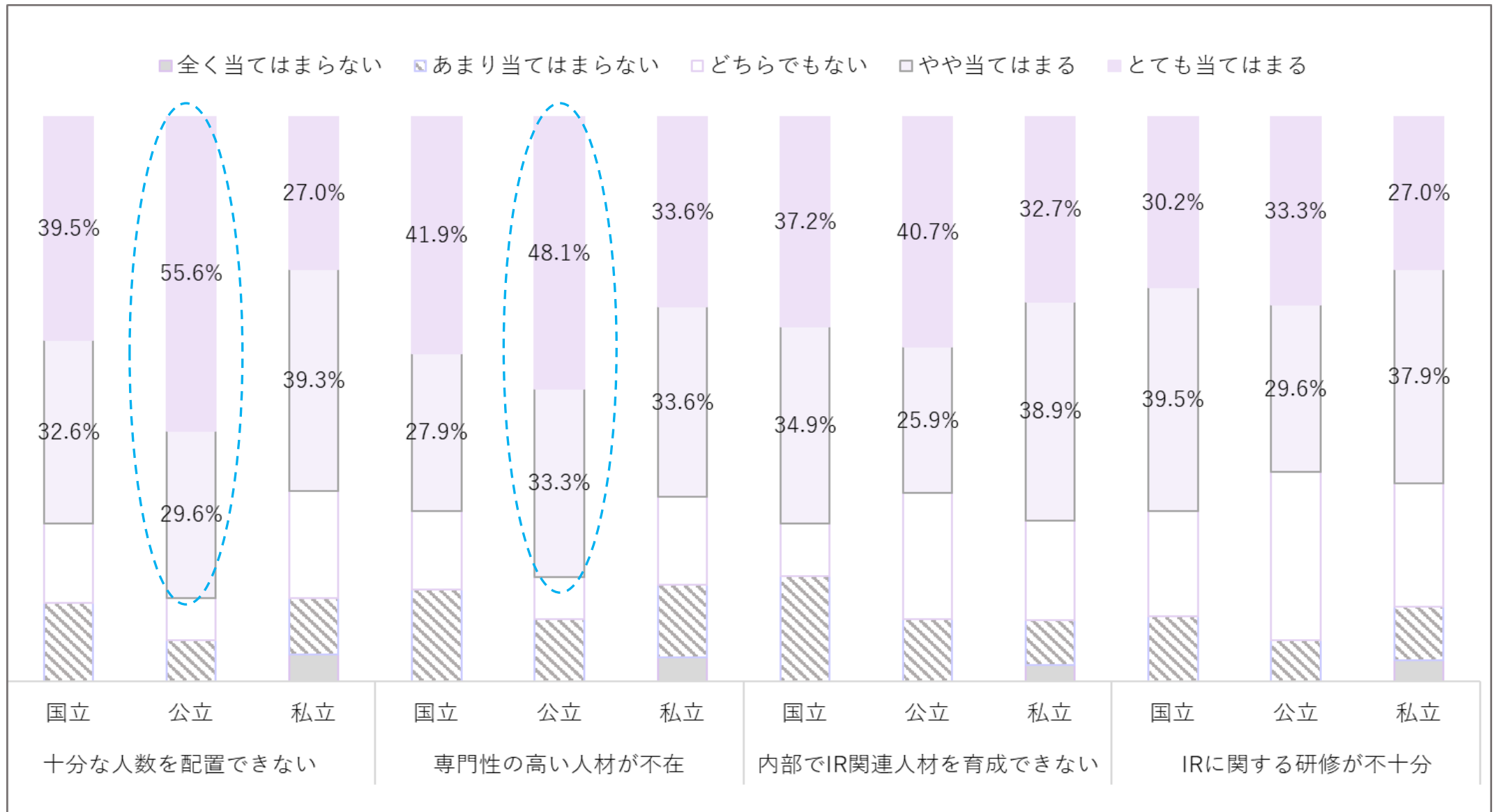
3.3 IR活動およびIR組織の課題(Q12×「IR組織の有無」) ③「外部環境」、「必要性」



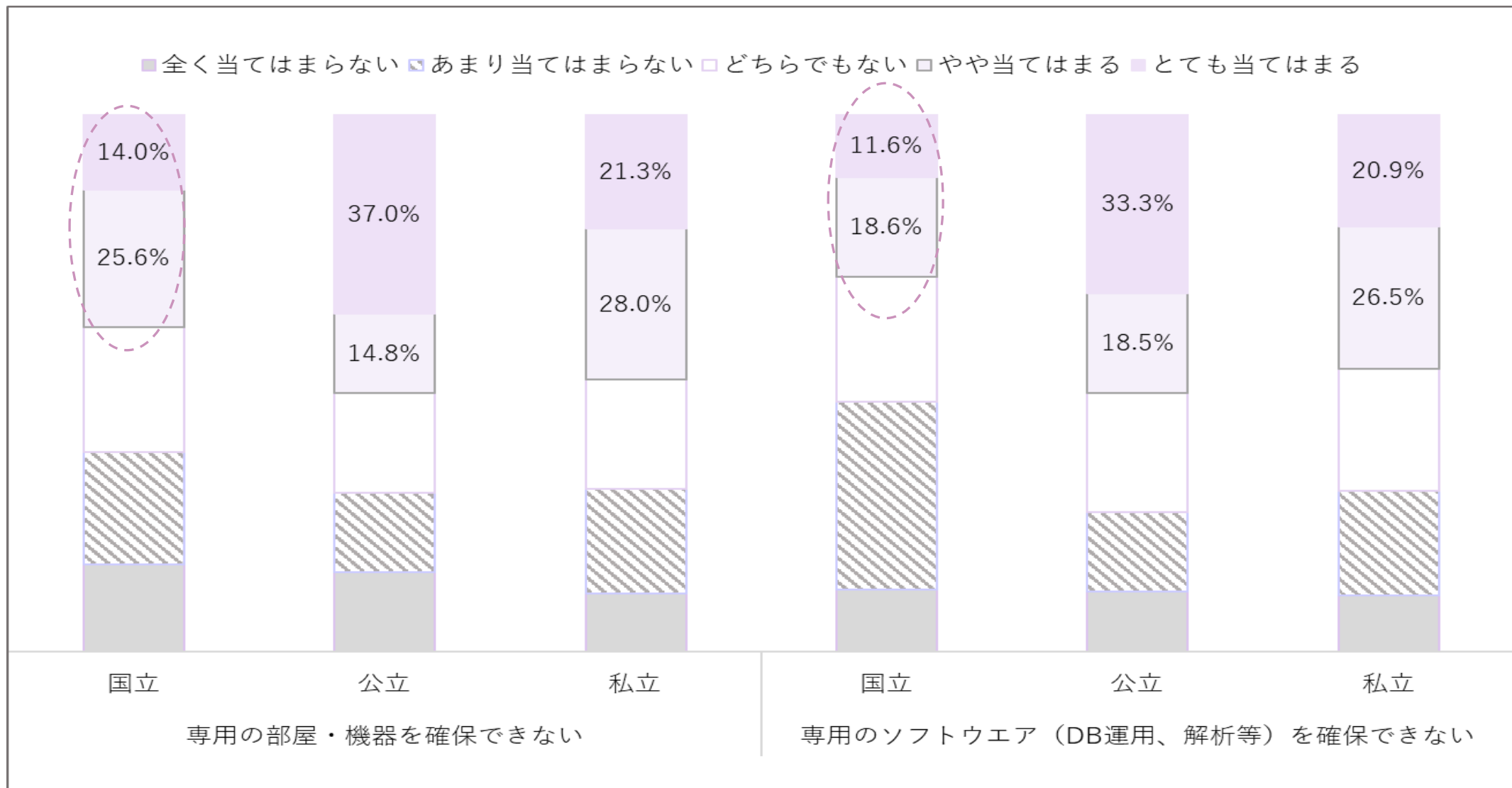
3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ①組織



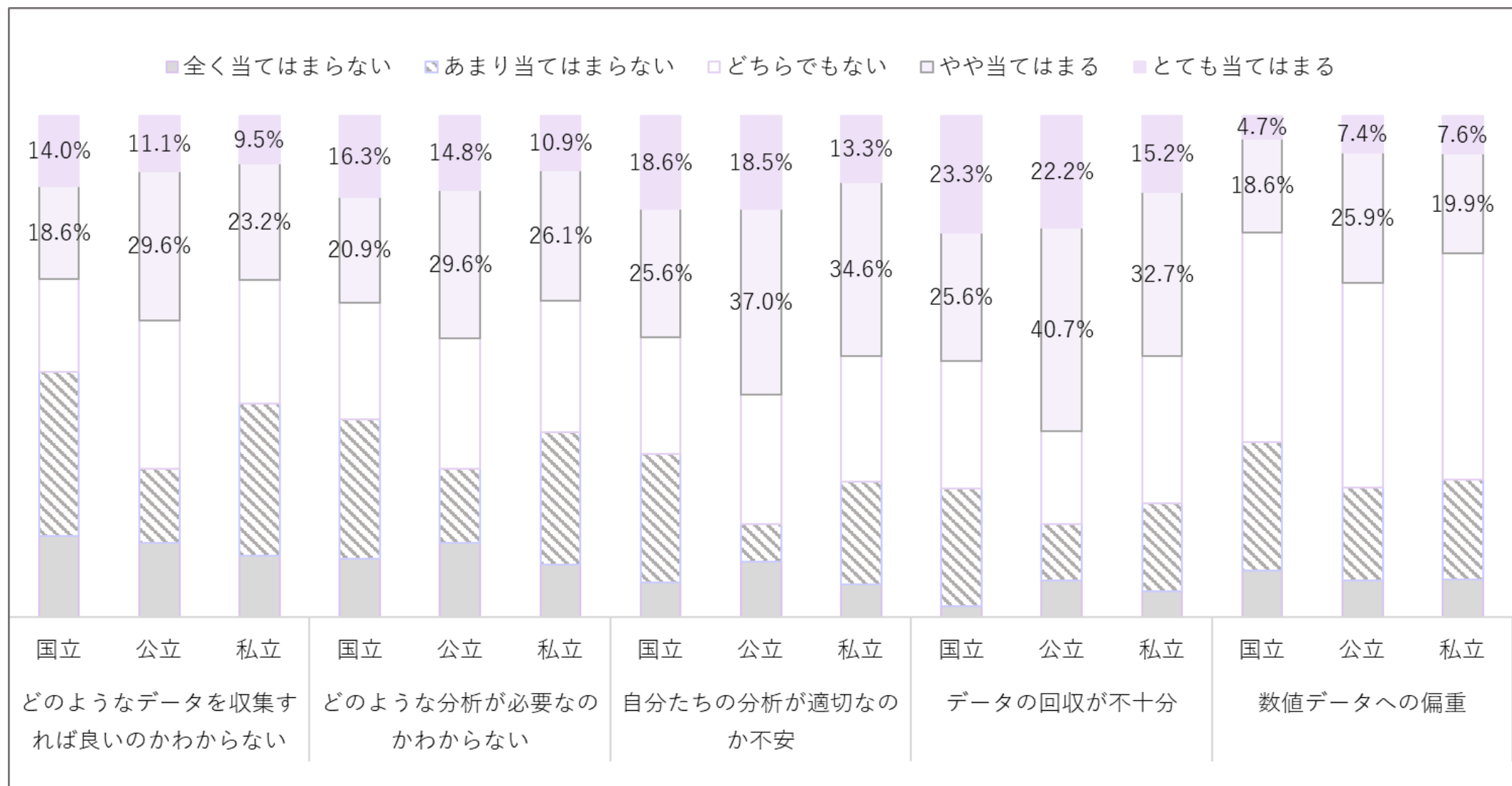
3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ②人材



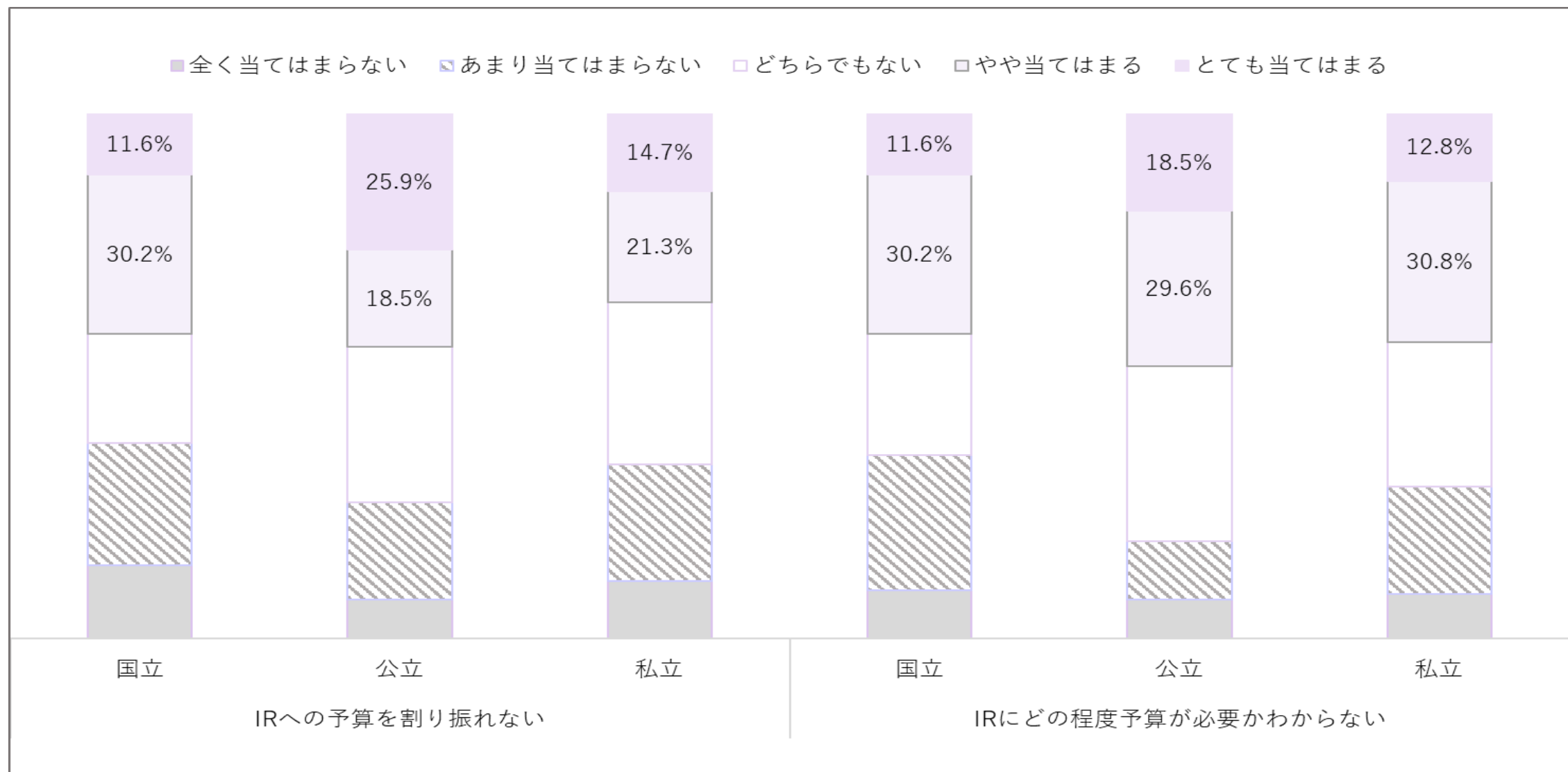
3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ③施設設備



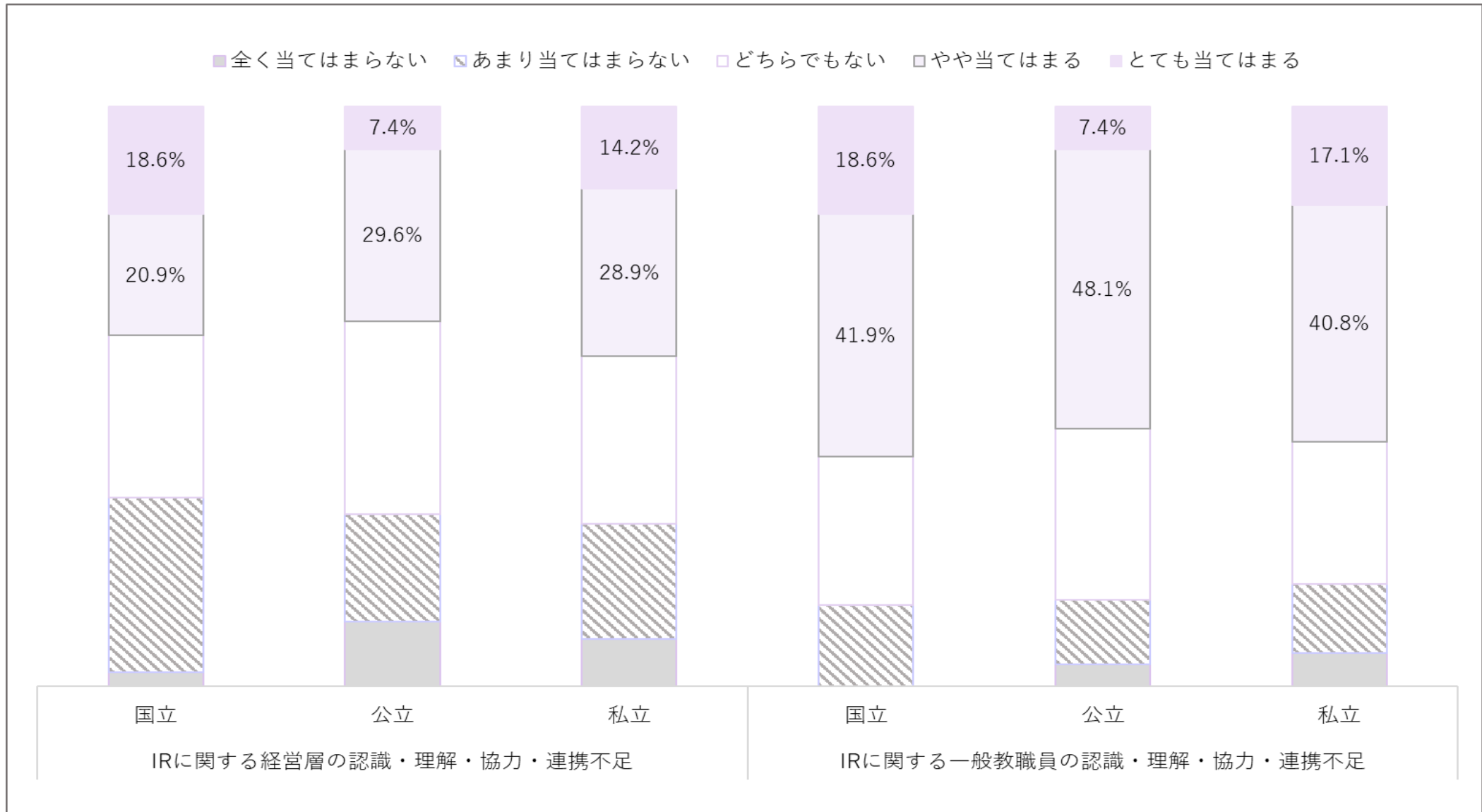
3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ④データ



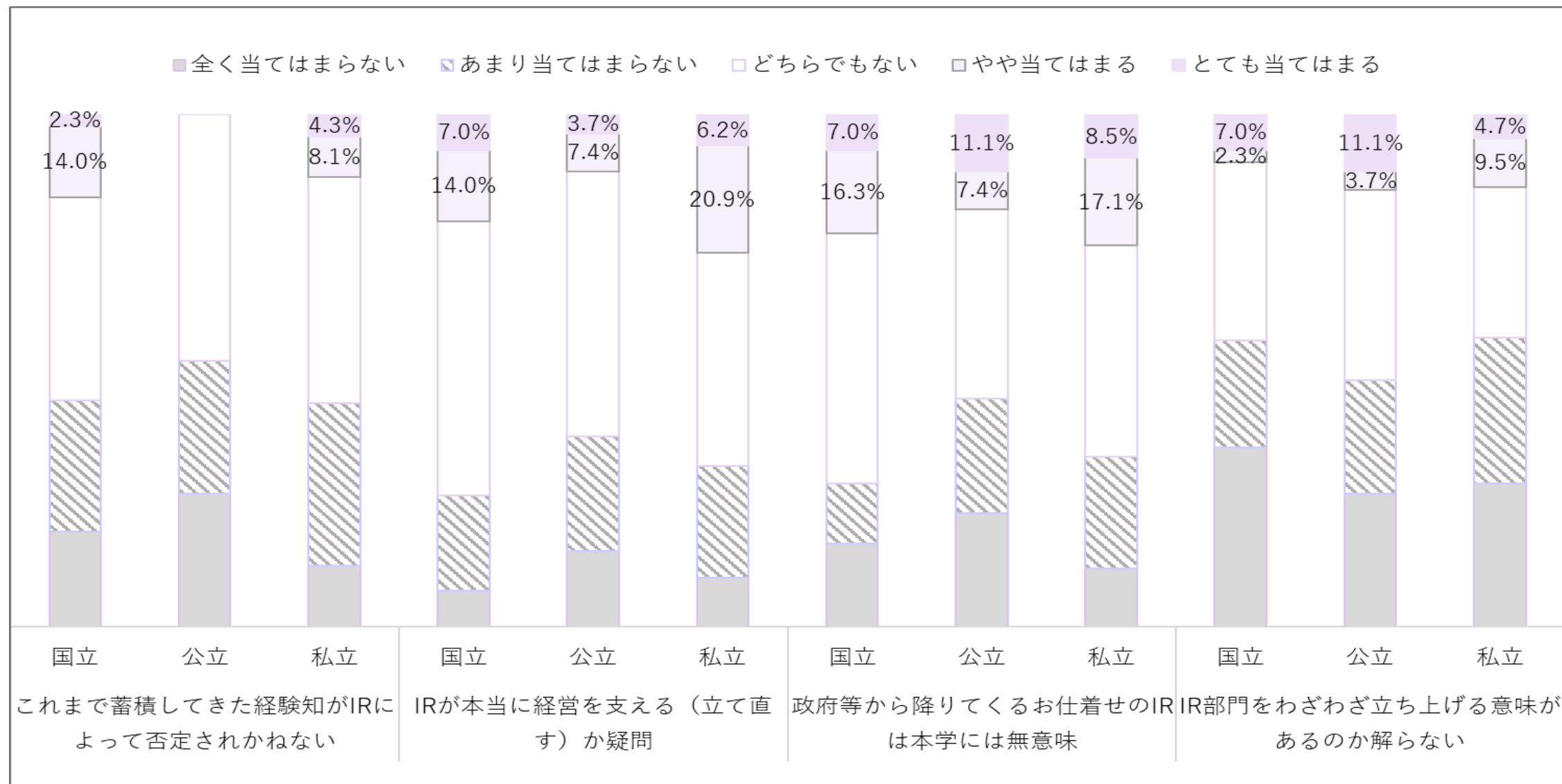
3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ⑤コスト・財源



3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×大学設置別) ⑥外部環境



3.4 大学設置者別のIR活動およびIR組織の課題(Q12×設置別) ⑦必要性



MORE THAN DATA. ACTIONABLE INFORMATION.



4. 速報値から見えてくる課題

速報値からみえてくる現状の特徴

- IR設置年のピーク時は2015～2017年：政策的な影響も存在 競争的資金（スーパーグローバル大学選定等）、私立大学等改革総合支援事業の項目、国立大学法人評価等
- IRに関わる職員は過去から見ても確実に増加
- IRの活動は、教学IR分野が多い
- 内部質保証への貢献としてのIR活動は、近年の大きな特徴
- 設置形態別の特徴は存在 公立大学の苦戦状況

速報値からみえてくる課題

IR組織が設置されていたとしても

1) 教職員の専任率および専従者比率も高くない

- ・専門性の高い人材が不在、内部でのIR関連人材の育成が容易でない、
十分な人材を配置できない、研修が十分でない

2) 学内での他の教職員の認識、理解不足、連携不足

過去には多く挙げられていた経営層の理解不足から一般教職員の認識、理解、連携不足に

3) 予算の組み立ての難しさ→独自予算がないという回答にも関連か

ご静聴ありがとうございました
